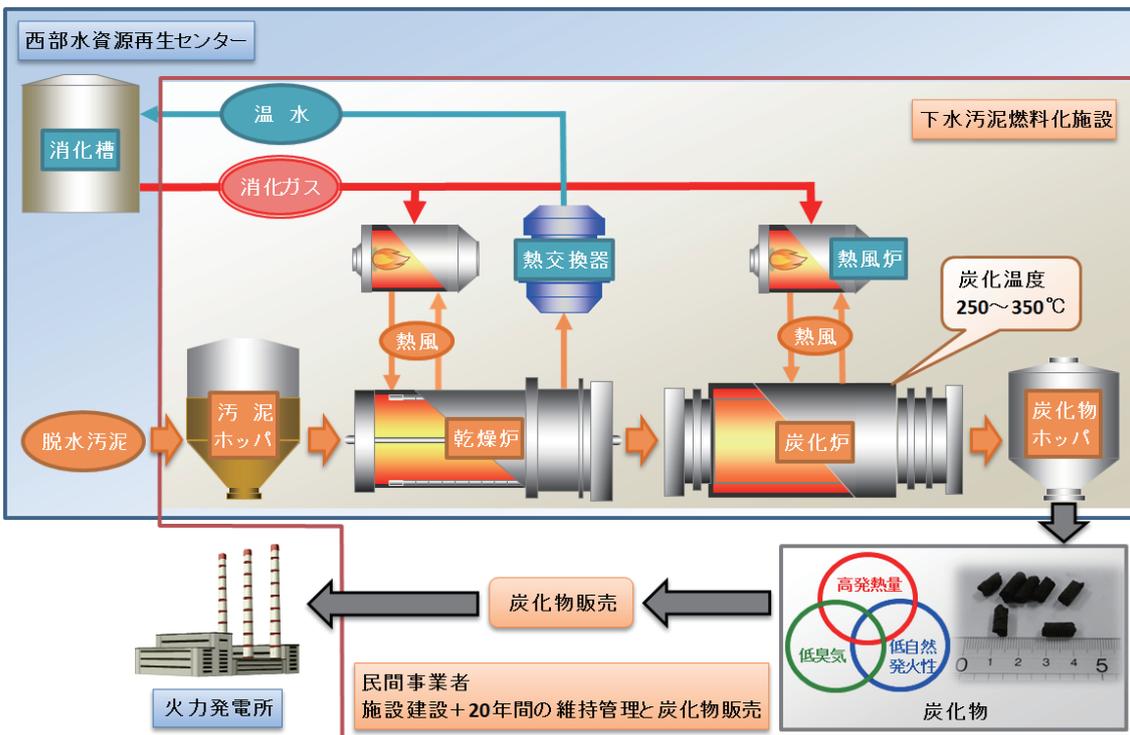
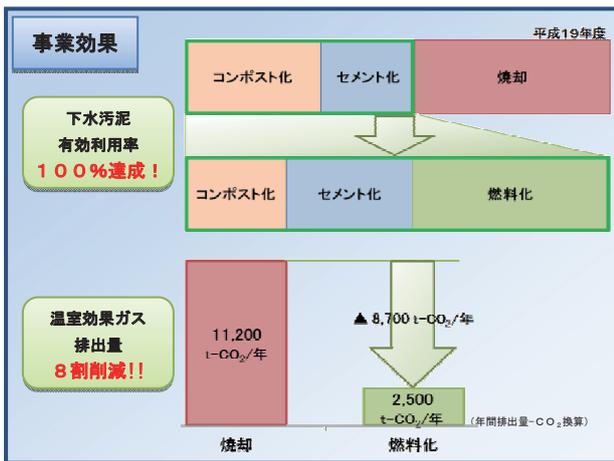


資源のみち部門

西部水資源再生センター「下水汚泥燃料化事業」
 ～わが国初！低温炭化技術による汚泥燃料化で焼却からの脱却～

広島県 広島市



広島市では、下水汚泥の有効利用による再生可能エネルギーの創出、温室効果ガスの削減を目的として下水汚泥の燃料化を計画し、生成した燃料化物を近隣の火力発電所で利用する事業を開始しました。

施設の設計から建設、維持管理、運営までを一括委託するとともに、製造される燃料化物の売り払いを条件付けており、20年間にわたって安定的な汚泥の処理を行います。

燃料化施設は西部水資源再生センター内に設置し、燃料化施設の炉の燃料に再生センター内で発生する消化ガスを積極的に活用するよう本市が計画したこと、また、従来の汚泥焼却施設を廃止したことで、温室効果ガスの大幅な削減を達成しました。

さらに、わが国初となる低温炭化技術を採用したことから、燃料化物の高発熱量化、臭気の低減、自然発火のリスク低減を実現しました。